

少量土壌培地耕イチゴ栽培技術の習得 による目標収量の確保

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

D氏は農業大学卒業後、令和2年3月から800㎡のハウスで少量土壌培地耕によるイチゴ栽培を開始しました。今年で2作目ですが、1作目は有機質培地の水分管理がうまくいかず、根腐れを起こすなどの課題が生じました。そのため、今作では土壌水分計を用いて土の水分状態を把握し、数値を目安とした水分管理を行うことで、目標収量である3t/10aの達成を目指しました。

【普及活動の内容】

土壌水分が生育に与える影響を調査するために6月に親株からとれる子苗を一部用いて、本圃の土を入れたプランターで育てることを提案しました。この結果、水分量が適切なら順調に生育し、適正な土壌水分は30%前後であることがわかりました。9月に本圃に定植する際は、植え付け前に土壌水分が30%前後であることを確認してから定植されました。その後の液肥の灌水管理は土壌水分40%を超えないように時間・回数を調節するよう支援しました。また、有機質培地は保水性が高く、12月頃から灌水回数は2日に1回程度と液肥の投入量が減少していたので、肥料不足とならないよう粒状の緩効性肥料を11月と3月の2回に分けて追肥するよう指導しました。



写真1 土壌水分を計測する対象者

【普及活動の成果】

普及活動の結果、1作目と比較して順調に株が生長し、2作目の年内収量は94kg/10a(1作目4kg/10a)となりました。また、対象者はデータに基づいて栽培管理を行う有効性を実感することができました。

今後は初期生育の改善を図るため、適正な時期のマルチ被覆と短時間複数灌水を行えるよう支援していきたいと考えています。

◎対象者の意見

1作目と比較して栽培を改善することができ、12月～1月は順調に収穫できている。来年度も引き続き、栽培指導をお願いしたい。(D氏)